

受講番号 18069 学校名 介良中学校 氏名 山下 千寿

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 3年1組(Aコース) 生徒数 5名 名
 科目名 3年生 単位数(授業時数) 3 時間 使用教科書名 New Horizon English Course 3

クラスの様子・特徴

このクラスは少人数で授業を行っている。1学期は8名の在籍。忘れ物や私語、暴言、席立ちなど、その授業は大変困難な状況だった。個々の生徒の英語力にも大きな差がみられた。そこで2学期は少人数学級の効果を上げるために、人数を5名に絞った。

問題の確定

語彙力を高め、音読に自信を持たせること。そのトレーニングの過程において集中力、書く力を養うこと。

予備調査

A 授業の観察

一斉授業では授業に参加することが難しかった生徒たちが、生徒と教師1対1の学習には取り組むことができている。そこで、このクラスには個人指導の形態が望ましいと考える。単語の発音や音読練習が困難な生徒に自信を持たせることが大切である。

B 生徒による授業評価

読む活動を一番苦手と感じている生徒が多い。また、今後どんな勉強をすればいいのかわからない、学習意欲に乏しい生徒が半数以上である。

C 学力データ

CRTテストの結果から、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」を除く3観点において得点率が低いことがわかった。最も苦手としていることは書くこと、次が話すことであった。

リサーチ・クエスチョン

全員が学習に取り組み、基礎的語彙力、リーディングの力を伸ばす方法。

仮説・実践・検証

仮説1

授業の最初に1分間の単語の速読を行う。毎時間同じ単語の音読練習を行うことにより、発音とその意味を同時に練習することができる。またタイムを計ることにより、自分の力が徐々にアップしていくことを確認しながら学習ができるだろう。

実践1

授業の最初に1分間の単語の速読を行う。毎時間同じ単語の音読練習を行い、発音とその意味を覚える。またタイムを計り、記録をしていく。

検証1

生徒にとっては取り組みやすいものであったようだ。毎回嫌がらず、積極的に取り組んでくれた。2週間に1回のペースで生徒自身による検証を行ってきた。その成果は、個人の差はあるもののよく習得できていた。効果的であったと考える。

仮説2

3分間の単語の書き取り練習を行う。仮説1で用いた単語を練習する。書く活動の場面を設定し、毎時間書き取りをおこなうことで、集中力・速く書く力が育つだろう。

実践2

3分間の単語の書き取り練習を行う。目標とする語数を毎回明確にしておく。仮説1で用いた単語を練習する。各シートの終了後にビンゴゲームなどで復習・確認を行う。毎回の確認として口頭によるテストを1人ずつ行う。

検証2

落ち着いた学習環境を作り、集中力・書くスピードをアップさせるのに大変効果的であった。速く、たくさんの量の文字を書く練習を続けることで、板書などノートに書くことを嫌がらずに取り組めるようになった。

仮説3

教科書の音読練習を行う。目標時間を設定し何度も音読にトライすることにより、教科書を振り仮名なしで読めるようになれば英語力のアップを自覚でき、生徒の自信になるだろう。

実践3

ワークシートを用いて音読練習を行う。教科書を振り仮名なしで読めるように練習を行う。タイムを計り自己の記録の更新を目指す。

検証3

個々の音読の力には大きな差はあるが、それぞれに英文を頑張るという意欲にはつながったと思う。1時間の授業で教科書を振り仮名なしで読むことができる生徒は5名中3名である。しかし1学期は全く音読をしなかった生徒が何度も音読練習に取り組む姿を見ることができたのは大きな成果だと考える。

研究の成果

全員が授業に前向きに参加できた。教室の人数を8名から5名に削減したことで個々への指導を充実させることができたことが大きな要因と考えられる。又単語練習にも意欲的に取り組む姿が見られ、1つでも覚えようと努力する姿勢を評価することができた。リーディングにおいても「自分から読みたい」といった積極的な態度がみられ、はじめは小さかった生徒の声も少しずつ大きくなってきている。個々の生徒と接する時間が増えたことで、生徒とコミュニケーションを図ることができたのは大きな成果の一つであったと考える。

今後の授業改善の課題

生徒たちがお互いに、関わり合いを持ちながら学習する機会を仕組みで行きたいと考える。相手をいたわり助け合う学習集団を育てるために教材や評価についての研究が必要である。また、生徒の実態と授業への要望を把握し改善に努めたいと考える。